川柳 さいたま

第４回彩栄賞発表号

シクラメン

平成24年
12 月号 (No.637)
日川協加盟

空間識失調ということ

願法みつる

地上における人間は、視野が保たれていれば、下方に向かう重力を認識することで、平衡感覚を維持出来るようにデザインされている。しかし三次元の空間で視野と重力を失うと空間識失調を生じ易くなる。つまり自分の姿勢が判らなくなるのである。目隠しをされた状態で空中に浮かんでいる自分を想像すれば、理解出来るだろう。航空機の操縦であれば、姿勢が保てなくなる可能性が生じるが、発達した機器類が操縦者の感覚の乱れを補っている。

話は飛躍するが、人類の幸福追求過程で認識する現代文明の進歩や人間性の向上においても、人類の足はしっかり地面を掴んでいただろうか。民族・国家・宗教・地勢・歴史の相違を楯に、主義主張の話し合いの場では、視野と重力ベクトルを見失い、果ては平衡感覚が失われているように思える。総じて見る限り、芥子粒のような個人の生き方ですら同じ事が言えそうである。更に、川柳人という側面での現象も亦、同じ論であると思える。

一個の川柳人が、社会人として、また人間としての平衡感覚を保ち続けながら川柳観を向上するためには、どれ程の試行錯誤を経ることであろうか。終生の修行なのだろう。この間、川柳することの意義なり価値なり目的や方法など、視野と足場をしっかり見続けて居ないと、川柳空間ひいては人間空間で失調してしまうことになりかねない。

十二月号 目次

堅太郎句抄（十二） 表紙 2
巻頭言 空間識失調ということ 願法みつる 1
彩玉集 ― 同人吟 2
第四回彩栄賞 6
交替鑑賞 十月号、十一月号から 戸田美佐緒 願法みつる選 11
雑 詠 石田 正則 14
映像コラボ 松田重信選 14
七七句 22
さいたまの柳人㉚ 金井 春江 25
初歩添削講座「プライド」「雑詠」 加藤孤太郎 26
題 詠 「 影 」 田中寿々夢 選 30
「抜け道」 大塚やまぶき 選
「スポット」 中島 一甫 選
さいたま町歩き吟行会 32
さいたま十一月句会 34
古丘の世界 文・今村 寿子 39
インフォメーション 39
編集さろん 表紙 3
句会案内 表紙 4
表紙（題字・清水 美江 写真・千葉 古丘）